



ふれあい広場あつべつ・科学館公園

再整備計画

概要版



第1章 計画策定の背景

1 計画策定の目的

厚別中央市民交流広場（愛称：ふれあい広場あつべつ）（以下「広場」）は、1996年（平成8年）に条例広場に位置付けられ、ステージや音響等の設備が整備されました。

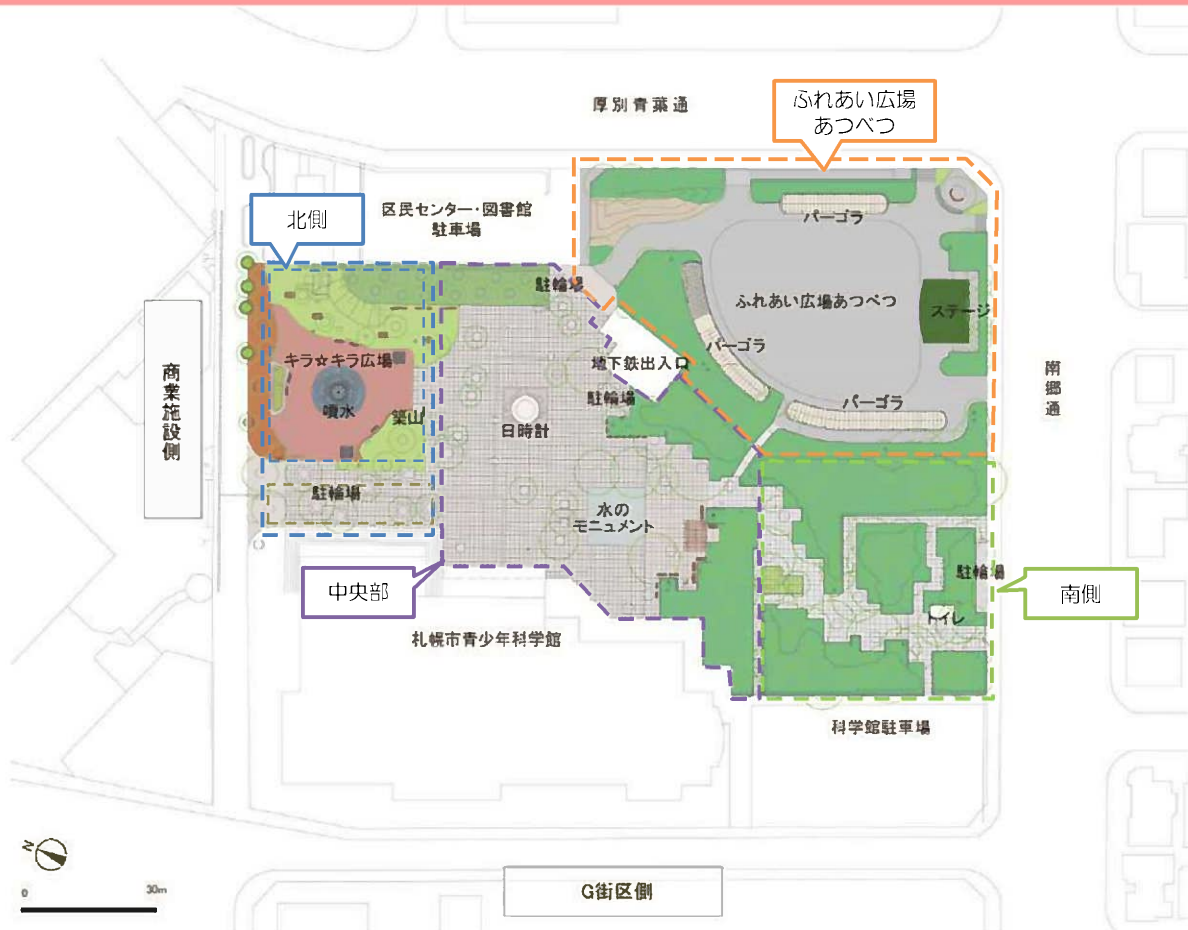
隣接する科学館公園（以下「公園」）は、青少年科学館のエントランス広場としての役割も踏まえ、1983年（昭和58年）年に特殊公園として供用が開始され、モニュメントなどの設備が配置されるとともに、自然を感じ、やすらげる貴重なスペースとして、現在に至っています。

広場・公園は、整備から相当期間が経過し、設備や舗装の老朽化が進んでいますが、その一方で、周辺地区では新たな民間開発が計画されているなど、今後まちが大きく変貌し飛躍する可能性を秘めています。

そこで引き続き利用者の安全性と利便性を確保するとともに、将来の更なるにぎわい創出に寄与することができる一体的な再整備の方向性を示すことを目的に、本再整備計画を策定します。

なお、本計画の策定にあたっては、地域の皆様にご協力いただき「ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会」を開催し、望ましいあり方や再整備内容に関するご意見をいただき策定しました。

2 ふれあい広場あつべつ・科学館公園の概要



ふれあい広場あつべつ・科学館公園現況図

【広場・公園の概要】 所在地：札幌市厚別区厚別中央1条5丁目
面積：ふれあい広場：約5,000㎡、科学館公園：約9,900㎡、計：約14,900㎡

3 新さっぽろ駅周辺地区のまちづくり計画について

広場・公園が位置する新さっぽろ駅周辺地区は、札幌市まちづくり戦略ビジョン※1において、区の拠点としての役割を担う重要なエリアに位置付けられています。

同地区において市営住宅の建て替え集約化により広大な開発可能地（G街区・I街区）が発生したことから、これらの利活用を中心にまちづくり全体の方向性を定めた「新さっぽろ駅周辺地区まちづくり計画」（以下「まちづくり計画」）を2014年度（平成26年度）に策定しました。

まちづくり計画内において、広場・公園は、更なる利便性の向上や、G街区側などとのアクセス性の向上等について検討を行うこととしています。

※1…平成25年度に策定された札幌市のまちづくりにおける最上位計画



新さっぽろ駅周辺施設概要図

4 アクションプランでの位置付け

本再整備事業は、「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015※2」にて以下のとおりに進めることとしています。

※2…財政規律を堅持しつつ、適切な未来への投資を行うことで、札幌市まちづくり戦略ビジョンの実現をより一層進めて行くことを目的とした計画

年度	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度
内容	再整備計画 の策定	実施設計	再整備工事 ・広場・公園ともに 40/100に当たる 整備	再整備工事 ・広場・公園ともに 60/100に当たる 整備
計画額	5,000千円	11,000千円	74,000千円	未定

アクションプランのスケジュール

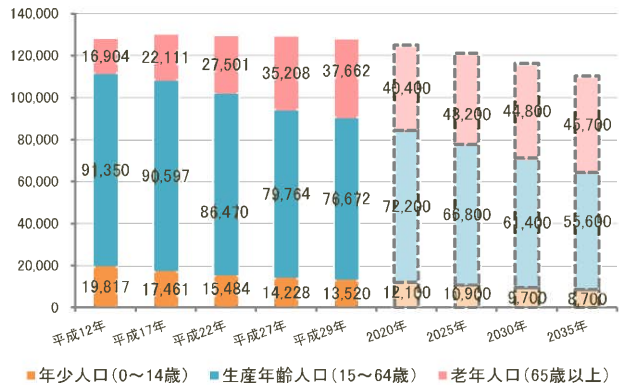
第2章 ふれあい広場あつべつ・科学館公園を取り巻く現況

1 札幌市・厚別区の現状

(1) 人口

これまで増加傾向にあった札幌市の人口は、2017年（平成29年）をピークに減少に転じ、2037年には約180万人まで減少、高齢化率は35.1%まで増加すると見込まれています。

厚別区の人口は、2017年（平成29年）10月時点では、約12万9千人となっています。将来人口は、2015年（平成27年）から2035年までの20年間に、生産年齢人口が約3割減少、老年人口が約1.2倍に増加し、少子高齢化が進行すると見込まれています。



厚別区の人口推移(年齢階級別) (人)

(2) 公共交通

厚別区は、JR2路線と地下鉄東西線が敷設されており、市内でも交通利便性の高い地域となっています。中でも、新さっぽろ駅周辺地区は、JR新札幌駅と地下鉄新さっぽろ駅が重層的に配置されているうえに、一日に1,200便が発着する新札幌バスターミナルがあるなど、非常に交通至便な地域となっています。

2015年(平成27年)の
日平均乗降人数(人/日)

	乗車人数	順位
JR 新札幌駅	14,120	市営地下鉄駅 4位
地下鉄 新さっぽろ駅	19,966	道内JR駅 4位

(3) 周辺施設

広場・公園周辺には、厚別区役所や区民センターなどの公共施設や商業施設、また、青少年科学館やサンピアザ水族館・劇場などの文化・教育施設があることに加え、今後も大規模な民間開発による新たな機能集積が予定されています。広場・公園はその中心に位置し、当地区全体への回遊性やにぎわいの連続に大きな影響を与える場所となっています。

2016年度(平成28年度)の
来館者数(人/年度)

	来館者数
青少年科学館	398,379
サンピアザ水族館	155,647
サンピアザ劇場	18,602

再整備に向けて(人口・公共交通・周辺施設の現状を踏まえて)

厚別区は、札幌市の中でも少子高齢化が進んでおり、今後もその傾向が続くことが予想されます。引き続き、広場・公園を活用し、区を中心とする新さっぽろ駅周辺地区におけるにぎわいを創出し、それを区全体へ波及させること、また幅広い世代に魅力を感じてもらえるような地域づくりに貢献していかなければなりません。

公共交通機関が至便な当地区では、通勤・通学、買い物等で多くの人が足を運び、さらに、周辺の青少年科学館や水族館など楽しみながら学べる多くの施設によって、文化・教育的な風土が生まれ、小さな子ども連れの家族が多く訪れます。

さらに、区民センターやサンピアザ劇場や光の広場では、演奏会や発表会・演劇など、多くの若者や学生が活躍しています。

今後、広場・公園は、多くの方々が来訪する地域にある優位性を生かし、若者や学生が活躍し、多世代の交流を促進できるような活用を目指す必要があります。

2 ふれあい広場あつべつ・科学館公園の利用状況

(1) 広場の利用状況

広場では、厚別区民まつりや新さっぽろ冬まつりなど、1年を通して様々なイベントが行われています。イベント件数は増加傾向ですが、2016年度（平成28年度）の利用率は18.6%となっており、夏（7～9月）が最も多く、秋（10～12月）が最も少ない状況です。



YOSAKOIソーラン祭り
新さっぽろ「あつこい」



厚別区民まつり



厚別区子どもまつり



新さっぽろ冬まつり

(2) 公園の利用状況

各位置についてはP1の広場・公園現況図参照

北側

①キラ☆キラ広場

2010年（平成22年）に厚別区誕生20周年記念事業の一環として整備された噴水広場です。「みんなが安心してくつろげる賑わいの空間」をキーワードに、特に小さな子どもの利用にスポットを当てた整備がなされており、現在も多くの子がにぎわう空間として活用され、貴重な施設となっています。



キラ☆キラ広場

②園路（駐輪場）

商業施設と公園を結ぶ科学館前の園路上には、通勤・通学者等のための仮設駐輪場が設置されており、歩行空間を一部阻害しています。そのため、隣接するキラ☆キラ広場を人や自転車が通り抜けるなど、動線化してしまっている現状があります。



園路上にある仮設駐輪場

南側

多くの機能が集積する駅周辺において、自然を感じられる貴重な散策路となっています。ただし、平坦ではなく高低差があることに加え、成長した高・低木が密集していることから、視認性が悪く利用者は少ない状況です。

また、公園用のトイレも設置されていますが、同様の理由で利用しづらい状況です。



公園南側

中央部

青少年科学館のエントランス広場となっており、コンセプトに即した日時計やモニュメント等が設置されているほか、中心部には地下鉄出入口が設置されています。

開かれた空間を利用して、区民まつりの際には飲食等の出店が並ぶなど、広場とともににぎわいの創出に寄与しています。

しかし、日常的に人通りも多くなく、人が滞在するようなにぎわいは少ない状況です。



公園中央部

3 利用者等のニーズ調査

(1) アンケート調査

広場や公園利用者及びその周辺の通行者や施設利用者を対象に、広場や公園の日常的な利用や今後の利用に関するアンケート調査を行い、合計 369 件（広場・公園及び周辺での街頭アンケート：127 件、公共施設及び周辺施設での配架アンケート：242 件）の回答をいただきました。

○調査結果

【将来のあり方について】

Q より多くの方に利用してもらうために、科学館公園はどのような場所になったら良いと思うか。

1 位 気軽に休めてくつろげる場所：26.7% / 2 位 親子が安心して遊べる場所：26.6%

Q 今後、ふれあい広場あつべつでどのようににぎわいを生み出したら良いと思うか。

1 位 イベント情報をもっと知ってもらえるよう PR する：34.1%

2 位 多くのお祭りやイベントを実施する：33.3%

【広場・公園全体の望ましい整備内容に関する意見】

Q 多くの方に利用され、にぎわいを生み出すためにはどのような整備を行うと良いと思うか。

1 位 ベンチやテーブル等の休憩設備の設置：24.4%

2 位 明るく見通しの良い空間や芝生の整備：20.4%

【再整備に関する自由意見】

分類	主なご意見
飲食	・屋台やフードカーなどが平日にあれば利用したい。 など
イベント	・イベントを増やしてほしい。 など
周辺施設との連携	・イベントや空間・動線として周辺施設との連携をはかってほしい。 など

(2) あつべつ区民協議会(厚別のにぎわい検討委員会)からの意見収集

主に厚別区のにぎわい創出に関して意見交換を行う「厚別のにぎわい検討委員会」(地域の自主的なまちづくり検討会)にもご協力いただき、再整備に関する自由な意見交換の内容を「ふれあい広場・科学館公園あり方検討委員会」に資料として提出いただくとともに、同あり方検討委員会にも一部委員として参加いただくなど、地域の声をより反映できるよう連携を取りながら本計画の策定を進めました。

再整備に向けて(広場・科学館公園の利用状況、利用者等のニーズを踏まえて)

広場・公園では、厚別区民まつりを中心に、地域全体で担い・楽しむことができ、多くのにぎわいを創出している大規模なイベントが開催されています。これら地域が必要としている歴史のあるイベントを引き続き支えていくことが求められます。

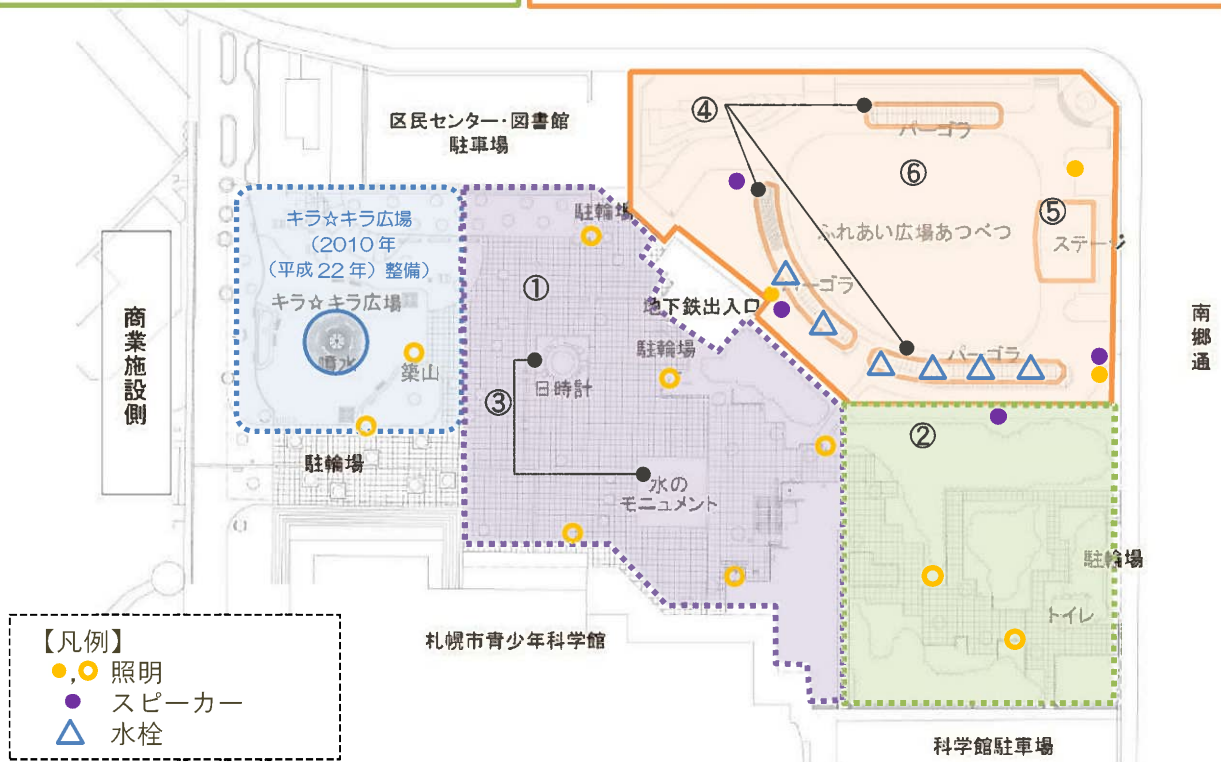
しかし、広場の年間利用率は決して高くなく、特に秋・冬の季節の利用が少ないという課題があることから、四季折々に1年中にぎわいを生むことに寄与できる空間とすることが求められます。

加えて、公園内に設置されている仮設駐輪場によって、公園・広場の回遊性が阻害されており、両者の連携や一体での活用がしづらい状況となっていること、さらに、アンケート調査では「気軽にくつろげる」「親子が安心して遊べる」といった意見がある一方で、「多くのお祭りやイベントを実施する」ことを望む意見も多くあることから、広場・公園を一体的に捉え、様々なニーズに応えられるような再整備を目指す必要があります。

また、アンケート調査では飲食サービスの提供やイベントの増加、周辺施設との連携など、にぎわい創出に繋がるソフト面の取組みについても意見が出されていることから、将来的な広場・公園の一体的な管理・運営のあり方等も含めた検討も求められます。

4 老朽化施設の状況

<p>【公園の老朽化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 舗装…① <ul style="list-style-type: none"> ▪ ひび割れや凸凹 ■ 照明…○ ▪ 柱部のメッキ剥がれ、腐食 ■ 樹木…② <ul style="list-style-type: none"> ▪ 樹木の成長による密集 ▪ 低木による見通しの悪さ ■ モニュメント…③ <ul style="list-style-type: none"> ▪ 故障 ▪ 動線の障害 	<p>【広場の老朽化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 照明・スピーカー…●● ▪ 柱部のサビ ▪ 故障 ■ パーゴラ…④ <ul style="list-style-type: none"> ▪ 屋根材の劣化 ▪ 軒先のサビやめくれ ■ ステージ・テント…⑤ <ul style="list-style-type: none"> ▪ 骨組み・テントの破損 ▪ 床面・側面の劣化 ▪ 照明の故障 ■ 舗装…⑥ <ul style="list-style-type: none"> ▪ ひび割れや凸凹 ■ 給排水設備…△ ▪ 腐食 ▪ 使い勝手の悪さ ■ ステージ地下室…⑤ <ul style="list-style-type: none"> ▪ 空調設備、雨水ポンプなどの耐用年数経過 ▪ 更衣室利用等での使い勝手の悪さ
--	---



広場・公園の老朽化の状況

再整備に向けて（老朽化の状況を踏まえて）

これまでの章で確認してきたとおり、広場・公園では、一体的に利用して行われる大規模なイベントから小・中規模のイベントまで、多様なものが開催されています。

地下鉄やJRの駅前空間でありながら、ステージやパーゴラ、水栓設備などを気軽に利用できる環境は、地域を中心とした利用者にとって非常に貴重な存在です。

今後も多様なイベント・にぎわいを支える空間として、既存設備の必要な更新と更なる改善を行い、引き続き利用者の利便性と安全性を確保することが必要です。

また、多くの方々が日常的に利用する公園内でも、歩行空間となりうる箇所や照明設備等の老朽化、また樹木の密集など、視認性や安全性に課題を抱えていることから、再整備の中で課題を解消し、将来の更なるにぎわい・やすらぎの創出に向けて再整備を行う必要があります。